

第16回 新潟教区信徒大会



ハッピーアワーでの交流。すてきな友だちできました！

新潟地区外での初の開催

鶴岡教会で九月二十三、二十四日両日にわたり、新潟地区外では初めての開催となる第十六回新潟教区信徒大会（実行委員長 萩原聡）が行なわれた。

大会は初日、あいにくの雨に見舞われたが、教区内外より約三百五十人の司祭、修道者、信徒が集り、大会テーマ「福音に活かされた共同体づくり」についての溝部脩高松教区司教の講話やミサ、一つの教区として、お互いを知り合う機会として位置づけられた、ハッピーアワーの時間を通して共同体としての喜びを味わった。



カトリック新潟教区
編集発行人 教区報編集部
〒951-8106
新潟市東大畑通1-656
TEL. 025-222-7457
FAX. 025-222-7467

昨年九月に叙階された菊地司教の、遠く離れた教区内の教会を一つにまとめたという意向を受け、今回新潟地区外では初めて、教区の地理的な中心である鶴岡教会での信徒大会が実現した。

大会冊子に綴られた菊地司教のあいさつ文で「大会を開催することで、共通の認識を持つことが目的なのではない。それぞれの違いを知り合うことが必要。そして大会を通して、主の御言葉を述べ伝える仲間がいることをよく確認してください。」と、福音に活かされた共同体による御言葉の宣教を促した。

友だちづくりに向けて

今年初め、鶴岡教会司祭館で大会実行委員による話し合いが行なわれていた。議題は大会の内容。

「せっかく鶴岡でやるのだから、今までと同じことをしても意味がない。どうするか？」議論が続く。主任司祭の本間研二神父が言う。「今までは大会に参加しても、同じ教区なのに他の教会の人という人な事を話す機会もなく、隣にいる人の名前も知らずただ帰ってくるのがほとんど。ハッピーアワーを設けて交流の場を作ろう。堅苦しい話よりも大会から帰った後に少しでも手紙の交換や連絡が出来る関係が出来たら成功だと思う。」

分科会をなくしハッピーアワーによる交流の時間を設け、アンケートを利用しての分かち

合いをする事にしたきっかけがある。こうして新しい企画の大会が動き出した。

自分にできる奉仕を

講師の溝部司教は講話のなかで、「一人一人の意識の変革が必要。人まかせにしない、おのおの自分のできる奉仕を考える。『ない』『しか』の発想をやめること。イエスも五千人の群衆の前に、弟子たちの言う、『五つのパンと二匹の魚しかない』食べ物をつまみ食った。意識の変革が多くの実りを結ぶ。知恵を出し合って変える。意識の変革、発想の転換がないと『惰性』『マンネリ』になる。」

又、宣教について「自分の一部になっている言葉を発すると相手は伝わる。人から好意を持たれる宣教をしなればならない。相手の立場に立つて相手のためにやること。相手に必要なものを考える。」と話し、参加者に感銘を与えた。

出合いは恵み

教区信徒協会長 斉藤 清
第十六回教区信徒大会では多くの出合いがあったことであろう。

鶴岡教会と山形地区の皆さんが企画して、一生懸命に準備した出合いの場であって、お互いに親しくなるための演出と工夫がされた、新しい発想豊かな素晴らしい大会でした。

私たちはその喜びをみんなで盛大に拍手をしてご苦労に感謝しました。こうして大会は、教

第16回新潟教区信徒大会 アンケート結果

今回の教区大会への感想・意見

- ・新潟以外の地区で開催するという発想の転換が良かった。
- ・地区持ち回り開催は良いことだ。
- ・ハッピーアワーは予想以上に実りがあった。名前を覚えられた。
- ・ハッピーアワーは他教会の人と交流が出来て良い企画だった。
- ・欲張りすぎて時間の配分が窮屈。
- ・1日で計画した方がありがたい。
- ・新しい形での教区大会は成功だったと思うが、今後にどのように続けるか課題が残る。

大会テーマ「福音に活かされた共同体づくり」で思うこと。

- ・いやしだけの教会だけではなく、「主の平和」のためにいかに主に仕えられるか一人一人考え、行動をおこすことが必要。それが活性化につながるのでは。
- ・自分がどう現実のなかで働いていくか、自己変革を常に求めていくことが必要。
- ・個人の意識で変わること。しかし意識する個人が広がらないと共同体の運営は難しいと感じる。
- ・毎日を明るく前向きに生きて、自然な形で福音宣教していきたい。
- ・自分の召命って何だろうと考える時間をいただいた。大切なことを気づかされた。

教区に対しての意見・要望

- ・教区内の交流をふかめる機会をふやしてほしい。
- ・次回は秋田県で開催してほしい。
- ・信徒大会の持ち回りに賛成。
- ・召命の貧しさが一番憂うべき事と思っている。司祭からの勧め、信者側からの働きかけが皆無に等しい。
- ・子供の信仰心を深める方法を考えてほしい。
- ・中越地震で被災された方々に教区として息の長い支援をしていただきたい。

※より詳しいアンケート結果を鶴岡教会教会報「でりぶらんど」にて各小教区にお知らせします。

区という教会共同体意識の高なりとなつて歩み出しました。もう一つは信仰と自分との出合いを確かめて、大会テーマの「福音に活かされた共同体づくり」をすすめるために、みずからを問い直して、このままでもいいのか、一人ひとりが自分のできるものはないか、私も何かをしようという意識と意欲をもったことです。

「御言葉を宣べ伝える」ということは、ことばで伝えることだけではありません。福音に活かされたあなたの積極的な生き方があなたの小教区を活発にし、目的に向かって成長させることになるでしょう。各小教区においては司教様が書簡で呼びかけられた二つの優先課題に早速取り組みましょう。大会一日目は夕方まで雨でしたが、二日目は大会前日の滴る雨の中でビニールコートの女性信徒の方が手入れをされた、天主堂前の花壇がまぶしい爽やかな秋晴れの大会でした。

二〇〇五年 司牧書簡

御言葉を宣べ伝える

共同体であるために

御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても励みなさい。
とがめ、戒め、励ましなさい。忍耐強く、十分に教えるのです。

(Ⅱ テモテ四章二節)

新潟教区の皆様

新潟教区司教として叙階を受けてからの一年、教区内のほぼすべての小教区を訪問し、司祭・修道者・信徒の方々と意見を交わすよう努力して参りました。一口に「新潟教区」と言っても、そこには秋田・山形・新潟のそれぞれ異なる歴史と現実があり、教会の抱える課題も地域によって異なっています。新潟教区のこれらを語るに先立ち、カトリック教会にとって少なからず厳しい環境の中で、宣教と教会共同体育成に取り組んでこられた司祭・修道者・信徒の方々、とりわけ海外から来日し長年に亘って宣教に尽くされてきた宣教師の方々に、心から感謝申し上げます。

さて、教皇ヨハネパウロ二世は使徒的勧告「神の民の牧者」において、「世に向けて希望を告げ知らせることは、すべての司教の務め」であると述べています(同勧告三)。様々な困難に直面しながらも、新潟教区が主イエス・キリストの体である教会共同体として、どのような希望を掲げ、それを告げ知らせながら歩んでいくのか、教区を代表する者として私の基本的な考えを明らかにし、皆様のご理解とご協力を仰ぎたいと思います。

何を指して歩むのか

具体的な問題に入る前に、一体何を指して歩むのかという、前提となる考え方を記しま

す。様々な課題がある中で、進むべき方向性を定める優先事項を二つ取り上げます。

そもそも私たちが「教会」と言うとき、それは何を指しているのでしょうか。ある人にとっては「建物」のことであり、「日曜日の集まり」のことでもあったり、さらには「そこに集まる所属信徒」のことであるのかもしれませんが。第二バチカン公会議は教会憲章において、「教会はキリストにおけるいわば秘跡、すなわち神との親密な交わりと全人類一致のしるしであり道



信徒と語り合う菊地司教(教区大会)

具である(一)」と定義しています。と同時に教会憲章は、教会とは「聖職位階制度によって組織された社会とキリストの神秘体」という「人的要素と神的要素によって形成される複雑な一つの实在である(八)」とも述べています。教会はキリストを頭(かしら)とするキリストの神秘体なのであって、私たちは現実の世界における組織形態の枠組みにありながらも、互いの交わりと一致を通じて、「神との親密な交わり」と全人類一致のしるし」とならなければなりません。「日曜日の集会」は、何よりも一致のため

聖心会、フランシスコ会の三修道会が、新潟教区にこれまで以上の会員を派遣する可能性があるのかといえ、残念ながら見通しは明るくありません。修道会も会員の高齢化と召命の減少という問題を抱えているからです。

教区司祭に関して言えば高齢化は明白であり、さらにこの四月に叙階した高橋学師がまさしく十年ぶりの新司祭といわれた事実と、現在は神学生が皆無であることを考え合わせれば、これから十年の間に、教区司祭の実働数が激減することは明らかです。今でも主任司祭が複数の小教区を兼任している例がありますが、今後同様の小教区が増加することを避けることは出来ません。

次に「交わりと一致のしるしであり道具」である教会には、主イエスから与えられた使命があります。「教会はこの世にあつて主の新しい現存をあらわし、福音宣教師として主の仕事が続け(福音宣教 十五)」ていると、教皇パウロ六世は使徒的勧告「福音宣教」で述べています。教会が福音宣教師として主の使命を果たすためには、「まず教会自身が福音宣教されねばなりません。(同上十五)」すなわち、新潟教区にとって第二の優先課題は、それぞれの教会共同体が、福音に生かされた共同体として成長し、その上で自らが福音宣教師となることです。

司祭の減少は、共同体づくりという課題に取り組み契機と言えるのかもしれませんが。もちろん共同体育成の過程で、複数の共同体をひとつにまとめることが、より良い共同体づくりに繋がるのが明らかになれば、そのときには小教区合併も考えましょう。しかし、今一番の課題は現存の小教区共同体のさらなる育成です。

具体的課題と取り組みへの展望

司祭の高齢化と信徒の役割

新潟教区を全体として見るならば、司祭の絶対数が年々減少傾向にあるとは必ずしもいえません。しかし司祭の年齢を見るならば、若いアジアからの宣教師が増えた秋田地区を除いて、高齢化の傾向は否めません。また教区各地区の司牧を委託している神言会、イエズスマリアの

教皇ヨハネパウロ二世は使徒的勧告「信徒の召命と使命」において、「信徒は、司祭や修道者とともに一つの神の民、キリストの体を形づくって」と述べています(同勧告二十八)。信徒の教会活動への積極的な参与を促しています。共同体の一致の目に見えるしるしとして、一致の秘跡でもあるミサ(聖体祭儀)が大切であることは論を待ちません。しかしたとえミサに多くの人が集まってきたとしても、そこに「交わりと一致のしるしであり道具である」教会共同体

が存在しなければ、充分ではありません。その意味で、信徒の方々には、これまで以上の積極さをもって共同体育成に取り組んでくださるようお願いいたします。

現在新潟教区の信徒が教区全体に関わる組織として、信徒使徒職協議会が設置されています。また司祭による諮問機関として司祭評議会が設置されています。しかし教区レベルでの協力、対話そして識別をするためには、この二つの組織を統合する場が必要だと感じています。教会法は「教区司教の権威のもとに、教区における宣教司牧活動に関する事柄を研究・検討し、それについての実際的な結論を提示することをその目的とする(教会法五一条)」司牧評議会の設置を勧めています。新潟教区では今後、信徒使徒職協議会からの具体的な答申を待って司祭評議会に諮った上で、来年度をめどに教会法五一条から五一四条に規定される『司牧評議会』に準じて、司祭・修道者・信徒の代表者によって構成される評議会を設置します。

司牧面では、多くの教会に任命されている聖体奉仕者の存在が、司祭と信徒の協力関係の象徴として重要です。ところが日曜日に司祭が不在で聖体奉仕者によって集会祭儀が執り行われると、参加があまりかんばしくない共同体があるというのを耳にしました。すでに触れたように「主の日」はキリストの体の一致を具現化する日でもありますから、仮に聖体祭儀が行われなくとも、教会共同体が一つに集まることは大切です。この観点から、司祭不在の場合の集会祭儀のあり方について式次第も含めて今後見直しをおこない、さらに聖体奉仕者の方々が単に聖体を受けるだけではなく、共同体の霊的リーダーとなることが出来るよう、継続養成のプログラムを設けるよう検討します。

福音に生かされた共同体の育成に関してはすでに年頭司牧書簡で触れたところですが、今後、御言葉と聖体において現存される主イエスによって生かされる共同体づくりのための方策を、具体的なプログラムとして提示できるように努力を続けていきます。どうか「御言葉を大切に

にして下さい。ミサに与る時だけでなく、機会を見つけて聖書を手に取り、そこに記された御言葉を通じて主の語りかけに耳を澄ませて下さい。聖書を学問的に学ぶことも重要ですが、それ以上に一人でも、またグループでも、聖書の言葉に耳を傾け御言葉を味わって下さい。可能であれば、ふさわしい指導を受けて、御言葉の分かち合いを行って下さい。」また「教会共同体の方々とはしばしばミサに与り、それぞれの教会共同体の事情に応じて、司祭に協力しながら、聖体祭儀の典礼をより豊かにするように心がけて下さい。(二〇〇五年年頭司牧書簡より)」

なお当面の間、終身助祭制度を導入することは考えていません。また現時点では、秋田・山形・新潟の地理的条件を考慮して、司祭のチームが複数の小教区を担当するという意味でのいわゆる共同宣教司牧も考えていません。ただし、地区を越えた司祭人事の可能性を探るため、修道会との地区委託契約を早急に見直します。

また教区全体の霊的成長を図るためにも、積極的に黙想会や研修会を開かれることを、小教区や様々な活動グループにお勧めします。そのような場として、新潟県では妙高教会、秋田県では聖体奉仕会修道院など、整えられた素晴らしい施設を活用してください。

海外から来られた信徒の司牧

世界的規模で国境を越えた移住が増加しています。教皇庁の移住・移動者司牧評議会は指針「移住者へのキリストの愛」において、移住者への司牧的取り組みの必要性を説きながらこう記しています。「移住者を思うとき、教会は、『わたしの旅をしていたときに宿を貸してくれた(マタイ二十五・三十五)』と語られたキリストをいつも観想します。したがって、移住の問題は、信じる者の愛と信仰へのチャレンジでもあります。(同指針十二)」

新潟教区の各地では、主にフィリピン出身の方々を中心に、海外から様々な事由によって来日された信徒の方々が大量居住しておられます。日本人と結婚している方々も少なくありま

せん。すでに小教区では、それぞれが出来る限りの対応をしています。現実的に様々な困難があることは承知していますが、海外出身信徒の方々だけによる独立した共同体が、小教区共同体と別個に出来る事態は避けるべきだと思います。そのため教区としても早急に滞日外国人信徒へのチャプレン(指導司祭)を任命するなど対応を考えると共に、それぞれの教会共同体においては、交わりと一致のしるしであり道具として、愛のうちに共に生きる姿勢を明確にする具体的な方策を、これからも真摯に検討していただくことをお願いいたします。

財政

教区の財政については佐藤司教様が二十年ほど前に出された教書の段階から、何ら改善されてはいません。現在教区では、修道会が担当してくださる地区に関して、司祭の生活費などをそれぞれの修道会に対応をお任せしています。しかし本来であれば、教区で働いてくださる司祭の生活は教区が保証すべきものでしょう。従って将来的には、教区司祭・修道会司祭、また修道者を含めて教区の宣教司牧事業に従事してくださる方々に、教区が給与を支払える体制を整えたいと考えます。また教区レベルで行われる様々な活動にも、十分な資金的配慮をすることによって、一層の活性化を図りたいと思います。

そのためにも教区の財政基盤を充実させることは急務です。教区の財政は、ひとり司祭団の問題ではありません。広く信徒の方々の意見も取り入れて財政問題に取り組むために、教会法四九二条から四九四条の規定に準じて、来年度をめどに、教区財政委員会の設置を検討します。

終わりに

新潟教区の皆様、小教区は「一つの心に結ばれた兄弟の集まりとしての神の家族」であり、「親密で誰でも受け入れる家庭」であり、「信じる者の共同体」です(「信徒の召命と使命」二十六)。

一つひとつの小教区共同体が、キリストの体として、そのように成長してくださることが私の一番の願いです。そうすることによっておのずと、福音は共同体のあかしによって広められていくでしょう。キリストの体に繋がれた一人ひとりが、部分であるお互いのために、また体全体のためにどのような働きをもつて貢献することが出来るのか、どうか一緒に考えてください。そして「キリストの言葉があなたがたの内に豊かに宿るようにしなさい。知恵を尽くして互いに教え、諭し合い、詩編と賛歌と霊的な歌により、感謝して心から神をほめたたえなさい(コロサイ三・十六)」という聖書の言葉に従い、それぞれの共同体を交わりと一致のしるしとして、豊かに育てて行きましょう。

二〇〇五年九月二十日

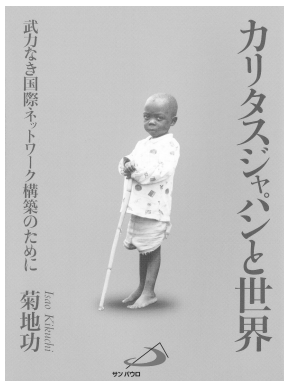
司教叙階一周年にあたり
新潟司教 タルチシオ 菊地 功

カリタスジャパンの世界

～武力なき国際ネットワーク構築のために～

戦後60年という平和を考える節目の年。カリタスジャパンは平和キャンペーンの記念事業として本書を発行。菊地司教様はNGOカリタスジャパンの活動から見てきた世界の有様と援助に関わる必要な知識と心構えを解説して、カリタスジャパンの活動の視点から世界を見たとときに、従来見えなかった世界を提供して下さいます。ファックスでも注文できます。お名前・住所・電話番号・冊数を明記してサンパウロ(FAX03-3351-9534)またはカリタスジャパン(FAX03-5632-4464)宛

菊地司教様の著書紹介



サンパウロ刊
1,050円

聖体：光と現存の神秘

(聖体の年に考える)

ドミニコ・ガンドルフィ神父(糸魚川教会)



の試練を乗り越えることができると思う。

教皇はこの書簡の終わり(二九)に聖体の年の目標として二つのことを提言している。

即ち、(一)日曜日のミサを生かすこと。(二)ミサ以外での聖体礼拝を促進すること、である。この目標を達成するため

今年が聖体の年であることは皆さんよくご存知のことと思う。全教会は前教皇ヨハネ・パウロ二世の勧めにより聖体の神秘について祈りと研究に励むことになった。(現教皇ベネディクト十六世もこの計画を承認し祝福している。)

ご存知の通り聖体の年の最後をふさわしく締めくくるために十月にローマで全世界の司教団の代表者が「聖体・教会生活と宣教の源泉と頂点」というテーマで討議することになった

ヨハネ・パウロ二世は聖体の年を始めるに当たり「主よ、一緒にお泊まりください」(二〇〇四年十月七日)という使徒的書簡で聖体の神秘を豊かな表現を用いて教示された。

この書簡で教皇は「聖体は光の神秘であり(十一)十八)、一致の源泉であり(十九)二三)、派遣の根源である(二四)二八)」と三つのポイントを強調されることによって私たちの知識を照らし心を促している。この三つの特徴を深く悟ることができれば、今この時代

の心を燃えたたせ、悲しみと絶望の暗やみから抜け出させ、イエスのもとにとどまりたいという願望を呼び覚ましたので

「主よ、一緒にお泊まりください」(ルカ二四の二九)(十二)

弟子たちは主に会ったからこそ当然のように願ったのである。

ミサ聖祭の流れに沿い、みことばの典礼を通して心が燃えてきて、ミサ聖祭の中心である感謝の典礼に移りついにミサ聖祭の頂点に達する。聖変化によつて救いのいけにえ(奉獻)命の糧(食事)終末の到来という三つの次元が生じる。このような神秘の多様な意味について教皇は次のように語られる。

「聖体の食事には、何よりもまず、奉獻の意味があることを忘れてはなりません。キリストは、聖体のうちに、ただ一度す

べての人のためにゴルゴダでさげられた奉獻を、私たちに新たに与えます。」

教皇は第三の次元についてさらに教示する。「キリストが歴史の終わりに再び来られる未来に向けて私たちを駆り立てます。この終末的な視点によつて、聖体の秘蹟は私たちを出来事そのものの中に引き寄せ、私たちのキリスト者としての旅路を希望で満たす出来事となります。」(十五)

聖体・現存の神秘 現存の神秘について教皇は述べている。「聖体の特徴(即ち奉獻・食事・終末の到来)は「現実に現存する神秘」という一つの視点に集約されます。このことは、何よりも私たちの信仰を要求します。そしてこの信仰によつて私たちは、イエスが聖体の形色のうちに真に現存することを信じます。この現存は「現実」と呼ばれました。なぜなら、

そのからだは血という現実のうちに、全キリストがいますとこ

ろなく実体的に現存するからです。」(十六)

はつきりとここに聖体の神秘の最も深い点が指摘されている。聖体にキリストが現実に現存することを信じるのは聖霊の恵みである。この恵みはミサをささげる信仰深い人に与えられる。ミサ中信徒はキリストの光に包まれているのでキリストの現存を深く感じキリストと一緒に一つになりキリストのために生き、自分の生活を通してキリストの存在をまわりに輝かせる。

聖体はミサ聖祭によつて信徒の心のうちに現存する他に聖櫃のうちに現存している。

「聖櫃のうちに置かれるイエスの現存は、数多くの霊魂がイエスに引かれて集って来る、人を引き寄せるある種の磁極となり、イエスの声を聞きその心の

鼓動を感じるために根気強く待つための準備が整えられていなければなりません。「味わい、見よ、主の恵み深さを」(詩編三四の九)

聖体の神秘を敬うにはどうすればよいか教皇は三つの勧めをしている。

祝うこと：ミサ聖祭はキリスト教生活の中心であることを理解した上で、定められた規則を守りミサ聖祭の神秘を祝う。

礼拝すること：ミサをささげる時もミサ以外で聖体を礼拝する時もどちらにおいてもキリストが現存していることを自覚するよう育成する必要がある。

観想すること：教皇の言葉を引用すると「私たちの信仰と愛によつて償うために、聖体のうちに現存されるイエスのみ前にひざまずきましょう。礼拝を通して、私たちの個人的または共同体的な観想を深めましょう。」(十八)

観想することは祈りの生活にとつても聖体の神秘の礼拝にとつても最高のことであると皆さんも実感し賛成されるところ。

聖体の年のおかげでミサ聖祭の豊かさに近づきながら次第に私たちの心が燃えたたせられ、霊的な火が燃え始めるとミサ聖祭の他にもごく自然に聖体の現存を探し求めるようになってくる。そしてこのような思いを深く感じるとすれば聖櫃にいらつしやるキリストは「ある種の磁極」となるであろう。

能代

ミューラ師金祝へ

秋田で記念ミサ

神言会司祭オスワルド・ミューラ師(能代教会主任)は、八月二十八日に司祭叙階五〇周年を迎えて、来る十一月三日(文化の日)一〇時三〇分から秋田教会で記念ミサを捧げる。



ミューラ神父
神言修道会で祝う(5月3日)

ミューラ師は一九二九年(昭和四)九月ドイッ・ババリア州生まれの七十六歳。一九五五年司祭叙階。一九五八年六月に宣教師として来日。一九六一年九月秋田教会(助任)着任以来、一九六六年(昭

和四十一)から一九八二年(昭和五十七)まで十六年間新津教会の第二代主任司祭として現新津教会の献堂など、福音宣教のたゆみない努力をされ、一九八二年から一九九八年(平成一〇)までの十六年間を大館教会主任として新潟教区の宣教司牧に活躍されて現在の能代教会で司祭叙階五〇周年の慶祝を迎えられた。

新発田地区

五月二十二日

第二十回新発田地区大会が五月二十二日、栃尾教会で開かれた。地元栃尾をはじめ見附・三条・加茂・新津・村松・新発田・村上の各教会から約百人が集まった。

この地区の多くは昨年七月十三日の新潟豪雨水害の被災地で

あり、復興の途中更に十月には新潟県中越地震で甚大な被害にみまわれた被災者も多く、菊地司教は挨拶で各共同体の信徒たちに、ねぎらいと励ましと、地区大会の準備と盛会に感謝を述べた。

各地区大会で信徒集う



ミサに使う種なしパンを焼く、ホスチア作りに奉仕する「秋田地区大会」参加者

秋田地区

六月十二日

第二十回秋田地区信徒のつどいが六月十二日、秋田教会で開催された。秋田県内七教会から一八〇人を超える信徒が参加した。

地区信徒の親睦と連携を深めるための大会「手作りミサ、パート2」は信徒が七グループに分かれていろいろな形でのミサの準備をするというユニークなもので、花で飾る準備、歌の準備、侍者の準備、俳句での共同祈願、ミサに使う手造りのロウソク、朗読の準備などだが、注目

はホスチアの手作りである。

大会をしめくくる午後二時からの共祭ミサは、菊地司教司式のもと七人の司祭が捧げた。菊地司教は参加型の大会の意欲的な試みに賛辞を贈った。

長岡地区

六月二十六日

第二十九回長岡地区大会が六月二十六日、高田教会で開かれ、八教会から約二百人が手作りの教会共同体を目指して祈りと分かち合いのひとときを持

った。菊地司教はミサの説教で「基本は主任司祭と日曜日の聖体祭儀を中心として集められる小教区の共同体で、それ以外のさまざまな運動や集まりは小教区共

同体を生かすための手段であって、目的にはなり得ない」と、小教区共同体づくりの大切さを説いた。

ミサ後、引き続き信徒総会、午後は分科会に分かれ三時近くまでたつぷりと「喜びを共に分かち合える共同体づくり」について分かち合いが行われ、最後は伝統的な聖体降福式で終了。

教区中学生錬成会

朝日村(新潟県)

出会いを信仰生活の糧に

教区主催の「中学生錬成会」がことしも八月十日から十二日まで、新潟県の朝日村体験交流センターで開かれた。新潟、山形、秋田県から十六人の中学生と、中学生錬成会経験の青年六人とインド人神学生(神言会)もスタッフとして加わり、来訪した菊地司教と参加者との対話の時間もあった。参加者の感想を紹介する。

感想文

(発表は五十音順)

池田 雄一

①テーマ 錬成会の夜。

②感想 錬成会の夜はとても楽しかった。初日にやった独断

の肝試しも楽しかったし、二日目の夜には全員でホットケーキを作った。とてもいい夜になったと思う。

石崎 友也

③肝試し。

④二日目の夜にやった肝試しが

とても楽しかった。石黒神父様や菊地司教様の貴重な体験談が聞けた。何よりも高橋神父様と

ジョセフさんに一番びっくりした。みんながくつつきながら雑木林に入った時はとても怖かった。

加藤 千尋

⑤おもいやる事のできる人に。

⑥私は中錬(中学生錬成会)に三年間参加しました。毎年、中錬で沢山友達をつくって楽しい

日々を過ごしました。人をおもいやる事のできる人に沢山出会えてうれしかったです。今年もそうでした。自分のシオリをなくしてしまい、みつかるまでさがしてくれた友達もいたし、おなか痛くなった時にスタッフも友達もすぐ心配してくれま

て良かったです。今回は前回よりも人数が多いので、みんなと遊んだりできないだろうと心配でしたが、全員と話すことができてよかったです。

次回はいく行くことができないけど、みんなで楽しめる錬成会にしてほしいです。

古俣 水月

⑦初めて錬成会に参加して。⑧思ったよりも全然楽しかった。(おいのりばかりと思っ

た。おのりのりばかりじゃなかった。おいのりばかりじゃなくて、聖書クイズもあって、新しいことが学べてよかった。聖歌練習は知らない歌もおしえてもらって、歌えるようになった。韓国版の聖歌もあっておもしろかったです。

⑨司教様のお話はよかったです。

⑩イエス・キリスト様のこと。⑪イエス様についてのクイズをしたら、少しイエス様のことがわかった。辞書で探したのでたくさん説明がしてあって、とても勉強になった。いままです

⑫辞書などを読んだことがなかったのが、詳しく載せてあるもので分かりやすく、そうなんだと思った。クイズ形式でみんなと一緒に考えながらやったので、とてもよく頭に入りこれ

らに役立つと思う。イエス様がいつも私たちを見守ってくださることを願って祈っています。

添原 彩子

小林 未希

⑬初めて錬成会に行つて。

⑭初めて錬成会に行き、他の教会の人と仲良くなれてよかったです。みんな歌をうたい、新しい歌を覚え

ました。韓国語の歌もうたいました。聖書クイズをやり、新しいことが学べてよかったです。

⑮司教様のガーナのお話が心に残りました。

⑯友だちとの出会い。⑰私は二回目の錬成会で、すぐ

小松 優実

くたのしみでした。最初は少し

恥ずかしくて、みんなと話すこ

とがあまりできなかったけど、

だんだんみんなとなかよくな

高橋 梨奈

①錬成会。
②私は二回目の中学生錬成会で、昨年は二日目からの参加だったので、今回はすごく思い出になることがたくさんあり、前にはなかった祈りの本をつかってのお祈りのためになっ

た。
司教様のしつもんコーナーなど、このきかいでしかきけないお話がきけて、すごいことなんだと思った。

ほかにとてもたのしい思い出ができ、友達もたくさんできて二泊三日ではたりないくらいでした。

服部 美桜

①二回目の錬成会。

②私は今年で二回目の錬成会になります。今年はいとこの久瑠美も一緒に、久瑠美も楽しかったと言っていてよかったです。友達も少し増えて三日間がすごくみじかく感じてとても楽しかったです。

来年はこれるかかわからないけど、来たいと思います。あとファイルありがとうございます。

服部 久瑠美

①新しい友だち。

②私は久しぶりの教会行事に参加して初めての中学生錬成会参加でした。錬成会はどんな会なのか、と思っていました。シオリを配られたらいろいろ楽しそうイベントが計画されていたので良かったです。部屋割りとグループの人の中で、とても仲良くおしゃべりできる人ができました。

新しい友だちにかこまれて、とても有意義な三日間でした。

藤井 茜

①最後の中学生錬成会。
②今年は私にとって最後の錬成会でした。

昨年友達になった人に会えたり、新たな友達が出来ました。

①ソング。

②一日目よりも次の日が楽しく、みんな大きな声を出して歌った。最後に歌った韓国語の「きみは愛されるために生まれた」をみんなで手をつなぎ輪になって歌えたことが素晴らしい。いづみちゃんのギター



出会は信仰生活の励ましとなるでしょう
みんなそろって錬成会場で(8月10日)

みんな歌をうたったり、ごはんを食べたり、とってもいい思い出がたくさんできました。そんな中で一番楽しかったことは夜の花火と肝試しでした。花火はきれいでした。肝試しは田んぼ道など怖かったけど、グループでとても盛り上がりました。

錬成会のすべてがとってもいい思い出となりました。

古山 泉

丸山 愛

はすごくうまかった。いづみちゃんには上達してスタッフになってぜひ中錬でギターを弾いてほしい。

①友達。

②錬成会には二回出させてもらって思うことは友達っていいなあという事です。はじめて会った人でも話ができて、仲よくなれてとても楽しい三日間でし

た。それにスタッフの人たちとも話をし、遊んで楽しかった。錬成会で会った信仰の友達は一生涯の友達だね。夜遅くまで話していて神父様にしかられて、それでもまだ起きていてとても楽しかったです。また会えたらいいなあ。三日間ありがとうございました。

三浦 まり恵

①錬成会について。

②三日間とても楽しく過ごせたことを私は神さまに感謝します。たくさんの方々ができて、いろんなことを学べて、錬成会にこれよかったです。

三井 春樹

①錬成会の思い出。

②思い出すことは肝試しと、スタッフの人の怖い話とホットケーキ作り。怖い話と肝試しは半分は怖かったけど楽しかった。ホットケーキ作りはメッチャおもしろかった。

村岡 いづみ

①楽しかったこと。

②私にとって今回の錬成会は初めての参加だった。

肝試しも花火、ホットケーキ作りなど楽しい行事がたくさんあり、友達とおしゃべりをしたりミサでギターの伴奏をやったり、みんなで歌ったことも楽し

丸山 愛

①友達。

②錬成会には二回出させてもらって思うことは友達っていいなあという事です。はじめて会った人でも話ができて、仲よくなれてとても楽しい三日間でし

ど一応弾けたのでうれしかった。来年の錬成会も楽しみたいです。

(神学生) ジョセフ・パサラ

①子供。

②イエス様は子供をとても愛しました。子供もイエス様を愛した。そこで私の感想は、子供達は週に一回日曜日ぐらいは教会へ行って、ミサと教会のいろいろなことを手伝って、また教会の祈りなどを勉強するべきだと思います。

世界の皆さんは神様の子供だから、神様を愛して、また一人ひとりがお互いに愛したら、この世は天国になると思います。

(スタッフ) 天田 知子

①中錬。

②初めて司教様がいらっしゃって、中錬全体が引き締まったように感じました。中学生も新鮮だったろうし、良かったです。

(スタッフ) 高沢 浩介

①逆境。

②今年の錬成会は「逆境錬成会」であつたと思う。

それはシオリや歌集の印刷から始まった。新潟教会で印刷を始めればインク(マスタードラム)はなくなり、予備もないという状態になってしまった。その後、新発田教会での印刷作業となったのだが、紙づまりとの戦いであつた。

錬成会初日も、中学生が予定していた電車で到着しなかったり、電車の中に忘れものをしてしまった人など、いろいろと予想しなかったことが次々と起つたのだ。

しかしハプニングは多かったものの、中学生はこの三日間で大切なものを得たのではないかと感じている。来年、また錬成会で会えるのをとても楽しみにしている。

(スタッフ) 高沢 佑太

①出会い。

②昨日まで知らなかった人が、三日後には友達に。それが中錬の魅力だと思います。



今年の中学生錬成会は、天候は連日曇りか雨でしたが、その分過ごしやすく、信仰における兄弟姉妹との出会いを宝と感じる人が多かったようです。

今回の錬成会では、料理やハイキングの時間を削る一方、菊地司教様との対話、マタイ福音書の通読、カトリックの教えを考える時間を取りました。多くのスタッフは以前、中学生錬成会に参加していましたが、今は、頼りになるスタッフとなっています。

今回の出会いが、今後の信仰生活の糧になれば、この錬成会の目的は達せられたと言って良いでしょう。多忙な時間を割いてご来訪くださった菊地司教様をはじめ、今回スタッフとして奉仕して下さった皆様、経済的・精神的に支えて下さった保護者や信徒の皆様、感謝の意を表します。参加者の今後の歩みにも恵みが与えられるように、互いに祈り合ひましょう。(教区青少年担当石黒晃泰神父、高橋学神父)

司教の日記

http://homepage2.nifty.com/Isaoymk/BishopTop.htm

二〇〇五年四月八月

●四月八日(金) 教皇様葬儀

今日は故ヨハネパウロ二世教皇様の葬儀の日でした。それにあわせて東京カテドラルでも司教団主催の追悼ミサが十一時から行われました。ミサには天皇陛下の名代として皇太子様が参加され、政府からは杉浦官房副長官と谷川外務副大臣が参加されました。

新潟教区でも今日夜七時より追悼ミサを行い、二七〇人を超える方々が参加して下さいました。



4/8 教皇様葬儀

●四月十一日(月) 酒田教会訪問
復活節第三主日に酒田教会で二名の方が堅信を受けられました。

酒田教会は二、三〇名ほどの信徒の共同体で、現在は鶴岡教会の巡回となっていますが、共同体は元気で、コーラスあり、お茶会ありと、元気いっぱい

共同体づくりが進んでいます。

ミサのない日曜には、信徒のリーダーの方による集会祭儀も行われ、信徒の方の結びつきはとも強いに感じました。

●四月十一日(月) 新庄市共同体訪問

酒田でミサを済ませたあと、今度は新庄市にある共同体を訪れミサをいたしました。新庄市には教会がありませんが、山形教会が担当して、定期的に公共施設を借りてミサが捧げられています。

昨日もホールには五〇人以上の方が集まりました。その多くが近隣で結婚しているフイリッピン人のお母さんたちです。日本人の信徒の方も三名ほどおられ、互いに協力しながら、長年にわたってこのような形で共同体が継続しています。

子供たちも大変多く、教会の将来のためにもその信仰教育が大切です。

●四月十九日(火) 鶴岡教会堅信式

十七日の日曜日は山形県の鶴岡教会で堅信式がありました。十三名の方々が堅信を受けられました。

鶴岡教会は建築後百年ほどを経ている歴史のある教会の建物で、国の重要文化財にも指定されています。堅信を受けられた皆様、おめでとうございます。
●四月二十一日(木) ベネディク

ト十六世誕生

コンクラーベは「根」を「競べ」る暇もないほど、あっけなく終了し、新しい教皇様が誕生しました。七十八歳と高齢ながら、ベネディクト十六世はこれまでヨハネパウロ二世と長年にわたって歩みをとみにして来られた指導者ですから、即座に実務に入られることでしょう。聖霊の働きに信頼しています。

●四月二十九日(金) 新潟教区に一〇年ぶりで司祭誕生

今日、新潟教区では一〇年ぶりに司祭が誕生しました。仙台出身のドミニコ高橋神父の司祭叙階式が、お昼からカテドラル新潟教会で行われました。教区内外から三〇名の司祭が参加してくださり、近隣の教区の信徒の方も加わって、聖堂は一杯でした。

●四月二十九日(金) 新潟教区に司祭誕生(続き)

高橋神父様は五月一日付で、新潟教会の助任に任命いたしました。また石黒神父様の補佐として、青少年の担当もしていただきます。これからの活躍に期待します。

また教区の信徒の皆様には、彼に続く神学生の発掘にさらにご協力をお願いします。次にまた「一〇年ぶりの司祭」では、寂しいですから。

●五月二日(月) 高田教会堅信式
昨日、五月一日には、上越市

の高田教会で堅信式を行いました。十八名の方が堅信を受けられました。

それにしても高田教会はすごいところですよ。教会の周辺にはいろいろな施設が教会によって開設されているのですが、特にすごいのはお隣にあった学校を購入して開設した老人ホーム(特別養護老人ホーム・ケアハウス)でしょうか。見学させていただきましたが、立派な施設です。

またこの元高校の体育館を転用して開設されている幼稚園も、何せ体育館ですから遊ぶスペースが十分あって、うらやましい限りでした。

●五月三日(火) 妙高教会献堂式

今日十一時から、妙高教会の献堂式が行われました。きれいに晴れ渡り、妙高山も厳かにそびえていました。多少雪が残っていたものの、桜も咲き始め、暖かな一日でした。

新潟教区の司祭やお隣の長野県で働くフランススコ会員も駆けつけ、二〇名を超す司祭の共同司式で、しかも通常は五〇人ほどしか入らないはずの小さな聖堂になんと二〇〇もの椅子が並べられ、主任のマリオ師(高田教会主任兼任)は「奇跡だ」とのこと。

ミサ後、会場をお隣の研修所に移し、祝賀会を行いました。この施設には、実は温泉があるのです。信徒の皆様、研修会などにご活用下さい。

なお今日は憲法記念日でした。新潟教会ではシスター弘田



5/3 妙高教会献堂式

を東京からお呼びして、講演会も行われました。

●五月五日(木) 新津教会幼稚園舎竣工式

今日は十一時から、新津教会の幼稚園園舎竣工式でした。

また幼稚園の第二代の園長でもあった二代主任司祭のミューラ神父様(能代教会)も久しぶりにおいでいただきました。ミューラ神父様は今年は司祭叙階金祝です。

●五月九日(月) 米沢・長井教会訪問

昨日(五月八日)は、山形県の米沢教会で午前中、長井教会で午後にミサをいたしました。米沢には北山原の殉教地もあり、この地で殉教した方々には、現在バチカンで列福審査が進行中です。

長井教会は米沢の巡回で、五人ほどの小さな共同体です。どちらの教会もイエズスマリアの聖心会が担当。現在の主任は四月から川又神父様です。

●五月十六日(月) 山形教会

山形教会では十二名の方に堅信を授けました。また土曜の午後は初聖体を受ける子供たち

の初告解も聞かせていただきました。山形には老人施設と保育園と幼稚園があります。この三つの施設には一人ずつオタワ愛徳修道女会のシスターがかかわってくださっています。この三人で、山形県で働くシスターはすべてであるというのも、またこれだよいかと思ってしまう少なさです。

日曜の午後には英語ミサも行いましたが、特に近隣で働いた方々を中心に、五〇名ほどが集まってくれました。

●五月十七日(火) 佐藤司教様納骨式

今日はすばらしい晴天に恵まれた青空の下、新潟市の寺尾にあるカトリック墓地において、故フランススコ佐藤敬一司教様の納骨式を行いました。ちよつとした高台にある墓地からは、日本海がきれいに見えています。



5/17 佐藤司教様納骨式

納骨式に先立って十一時から追悼ミサを新潟教会で行いました。昨日から静修のために集まっていた新潟教区司祭に加え、長岡地区のフランシスコ会員、山形地区の本間神父様、秋田地区の飯野神父様も参加してください。信徒の方々も平日にもかかわらず、六〇人ほどが参加してくださいました。

伊藤司教様や野田教区長様と共に、立派な墓が出来上がりました。一度是非お訪ね下さい。

●五月二十九日(日) 糸魚川教会 堅信式

今日は朝九時半から糸魚川教会で堅信式を行いました。十一名の子供たちとお一人のお母さんの十二名でした。昨晩も二〇名ほどの信徒の方々が集まってくださり、分かち合いの一時を持ちました。予期せぬ展開でしたが、集まったお一人お一人の信仰体験記の分かち合いになりました。

小さいながらもすてきな共同体がありました。単に仲が良いと言うのではなく、信仰体験をお互いに語り合える共同体とはすばらしいものです。結婚されているフィリッピン人の方々も多く、堅信を受けられた子供たちにもお母さんがフィリッピン人の方が数名おられました。そのほかにもブラジルの方など、国際的な共同体でもあります。

●六月一日(水) クララ会誓願式
昨日は上越市の高田教会で、聖クララ会上越修道院に所属するシスター戸梶順子さんが、一生を奉獻する莊嚴誓願を宣立

されました。

いつもは修道院の塀の中で暮らしているシスター方が、教会まで出向き、信徒の方々と共にミサで祝いました。私にとっても初めて観想修道会の莊嚴誓願式でした。

●六月五日(日) 村上教会堅信式

先週は新潟県の一帯の富山県に近い糸魚川におりました。今日はその全く反対側、山形県との境に近い村上市にある村上教会を、堅信式のために訪問いたしました。堅信は二名の方が受けられました。

村上教会は小さな共同体で、現在は新発田教会の石黒神父様が、毎月一回ミサのために訪問する巡回教会となっています。

今日は堅信式と言うこともあり、村上の信者さんに加えて新発田や新潟の信徒の方も加わり、さらにフィリッピン人の方も数名加わって、三〇人以上がミサに参加してくださいました。

いつもの日曜日は十人程度の共同体だということです。

●六月十九日(日) 加茂教会訪問

今日は加茂教会を訪問させていただきました。加茂と言って何処にあるのか私も今朝まで分かりませんでした。司教館から車で一時間ほど、新潟市に今年合併した新津をすぎて、限りなく三条に近づいたあたりにある、人口にして三万強の市です。教会には幼稚園が隣接されており、新津教会の鎌田神父様が兼任されています。

現在は日曜のミサは月に一回。共同体は二〇人ほどで大変

良い家族的な雰囲気でした。近隣にはフィリッピンやスリランカ出身で結婚されている方もおられ、小規模ながら国際的雰囲気でした。ミサの後昼食を共にしながら、率直な意見交換もあり、楽しい一時を過ごさせていただきました。

新潟教区には同様の小さな共同体が多くあります。規模が小さくともその独特の家庭的雰囲気を、是非宣教につなげていただいて、一人でも多くの方に福音が伝わるように努力していきたいものです。

●六月二十九日(水) カリタス

ジャパン新潟視察
昨日から明日まで、カリタスジャパンの全国教区担当者が新潟に集合し、中越地震救援事業に關しての現地視察をしております。十六教区全員参加とは行かず、九教区からの代表参加となりました。

昨日は午後から新潟教会に新潟県出納局長の土田純一氏を招いて、地震発生後の救援物資の動きについて貴重な体験談をうかがいました。

今日は午前中に長岡市役所を訪問し、旧山古志村村長であり現在長岡市の復興管理監を務める長島氏のお話や、福祉関係の担当者である高橋氏から貴重なお話を伺うことが出来ました。その後仮設住宅を皆で訪問し、仮設住宅の集会所でお昼をいただきます。

カリタスジャパンとしてはこのような国内の視察を企画したのは初めてでしたが、いろいろ

と貴重な体験談をうかがうことが出来て、有意義であつたと思います。

●七月八日(金) 聖体奉仕会修道院訪問

七月六日は秋田の聖体奉仕会修道院を訪問しておりました。秋田市郊外の山の中にある修道院は、落ち着いた雰囲気、広い庭園もあり、祈りをするためにはすばらしい雰囲気です。聖堂も純和風な作りで、堂々とした存在感があります。

シスター方が巡礼などで訪れた方々のために、献身的に尽くしておられます。

新潟教区にはこういった場が多くはありません。特に霊的成長のためには黙想会が出来る場や、研修会などが出来る場が必ずあります。

どうか教区の皆様にも、黙想や研修、そして巡礼のために、聖体奉仕会の修道院を積極的にご利用下さい。

●七月十一日(月) 三条教会訪問

昨日(一〇日)、三条教会で復興感謝ミサを行いました。昨年の七月十三日の豪雨と洪水に被災されてから、すでに一年がたとうとしています。

あの日濁流に家財道具一切を流されて、そのまま家を再建することもままならない人も多くいます。仮設に住んでいる方もおられます。そのとき汚水ともいふべき濁流に浸ったためか、近頃になって体調を崩された方もいます。ミサ後の集まりでは、一人ひとりがあの日の体験を分かち合いました。体験談を

うかがいながら、まとめてどこかに書いておきたいような話ばかりだと感じました。

厳しい災害の現実の中でも、それを通じて人と人のつながりが出来たり、少なくとも何かが生まれたことは事実のようにです。完全な復興には、まだまだ時間がかかるでしょう。共に忘れずに、祈りたいと思います。

●七月十七日(日) 秋田・本荘教会訪問

私の教区内小教区公式訪問もそろそろ終盤にさしかかってきました。とはいえ秋田県内の教会がまだいくつに残っています。私の神言会コネクションから、秋田を後回しにしてしまいました。申し訳ないです。というわけで昨日から秋田県の本荘教会を訪問していました。

この春の合併で本庄市は由利本庄市となり、秋田市とはお隣同士となっています。

幼稚園が隣接した小さな共同体です。今日のミサは二〇人ほどの参加でしょうか。県立大学のキャンパスがあるとのこと、ペルー人の先生一家もおられました。主任司祭は神言会の秋田地区では長老となりつつある桃田神父様です。

●七月十七日(日) 本荘教会(その二)

秋田県では特に農村部の人口減少が激しく、本荘教会も人口減のあおりを受けているようです。それに近くにそびえる鳥海山の方にまで、また山形県との県境の方にまで、信徒の方々は分散しており、特に高齢になら

れると冬などは教会に出てくることも適いません。

かつて教会は幼稚園を主体として幼児教育から取り組んでいきましたが、もしかしたら今は、幼児教育と共に高齢の方々の何らかの取り組みも真剣に考えるときなのかもしれないと思います。

●七月二十四日(日) 能代教会訪問

今日は能代教会を訪問してきました。秋田から更に北へ六〇キロほどの所です。能代といえどバスケットで有名な学校があるところですよ。教会は街の中心からは少し外れたお寺なんかが多い閑かなところにありました。幼稚園が隣接されています。集まった信徒の方々は二〇人ほどでしょうか。新潟教区内にいくつかある、小さな共同体の一つです。

ミサの後は一緒にテーブルを囲んで食事をいただきました。ミューラ神父様もお元気でした。

●八月七日(日) 平和旬間行事 in 新潟

今日、日曜日の午後、新潟教会を会場に新潟地区の平和旬間行事が行われました。久しく正義と平和の活動には指導司祭がいなかったのが、今年度から寺尾教会の佐藤神父様をお願いしています。亀田教会の山頭神父様に十七年間のフィリッピンでの体験をお話いただき、質疑の後、四時から平和祈願ミサを行いました。